

規格名称：再配置を少なくするファイル配置方策

概要：

ファイルシステムは数多く存在するが、領域割付手法がクラスタ（セクタの整数倍のサイズ）のリスト又はエクステンツ（それぞれがセクタの任意の倍数のサイズ）のリストであるため、ファイルの生成及び削除を繰り返していると、ディスク上で一つのファイルが分断して配置される率が高くなり、結果的には多くのファイルが分断（fragment）状態になり、ファイルシステムの性能劣化を招くことが長年の課題であった。

現状のこの課題の解決方法は、脱分断（defrag）ツールを利用して分断状態の多くのファイルを再配置（reallocate）して連続領域（continuous area）に再配置し、分断状態から一つ一つのファイルを解放することである。

脱分断ツールは時間が掛かり、その間仕事ができなくなるのが課題であり、分断状態をなるべく起こさない領域割当手法が求められていた。

CoPo2（Concatenation of Power of 2）はこの課題の解決方法の一つであり、規格化に値するとの認識で、規格を制定することにした。